

ジェンダー平等と女性の エンパワメント

2023年7月19日

ガバナンス・平和構築部

ジェンダー平等・貧困削減推進室

ジェンダーとは

- 生物学的な性別 (sex) ではなく、社会的・文化的に作られる性別のこと。
- 生物学的な男女の違いに特定の価値を与え、「女らしさ」「男らしさ」などの概念を形成する。
- 同時に、個人の資質とは関係なく、その性別によって男女それぞれの行動様式や社会的役割を固定化するもの。
- 社会、文化、時代と共に変化するもの。
- 一般に多くの社会でこの関係性には不平等な力関係が存在する。女性たちは、「女性だから」という理由だけで、男性に比べて不平等な立場に置かれることが多い。

ジェンダーによる様々な影響・制約

*文化・社会的背景等により影響・制約は異なりますので、対象地域の状況を調査して把握する必要があります。

- 能力強化の機会（学校教育、研修など）が限られる。
- 移動に制約がある。
- 不平等な家事労働負担により、時間に制約、体力的に消耗など。
- 女性が潜在的な顧客として認識されにくく、女性特有のニーズが把握されない。
- 男性がいる場では、意見を表明することが難しい。

（以上は一例です。国・地域により状況は異なります）

ジェンダー視点に立つことの重要性

1. 基本的人権

2. 人口の約半分を占める女性が開発プロセスに参加しないと開発効果が十分に得られない。

調査事例：

- 女性の経済的参加を男性と同等のレベルに拡大すると、GDPを26%(28兆ドル)増加することができる。(McKinsey Global Institute, 2015)
- 70か国の13,000企業を調査した結果、経営層においてジェンダー多様性確保の努力をした企業の方が10-15%成長率が高い(ILO, 2019)
- 女児が1年長く初等教育を受けると、その子が将来得る収入が約10-20%増加(WB, 2002)
- マラウイでは女性が男性と同等に農業資源にアクセスできれば、農業生産が7.3%増え、GDPが1億ドル増加し、24万人が貧困状態から抜け出すことができる。(UN Women, UNDP, UNEP, WB, 2015)

JICA事業

- 中学校建設を支援した際に、女子トイレに電気式生理用品焼却炉を設置。
- 女性が組合、生産者グループ等に参加しやすい、働きやすい工夫を行う。要職にも配置し女性特有のニーズを活動に反映する。
- 農業などの研修に女性の参加を推進（半数を女性とする等）。女性が参加しやすい場所、時間帯を設定、託児所を設けるなど工夫。女性の生産技術向上で収入が増加。男女が参加し、家計マネジメント研修等を行った結果、子どもの就学率向上、男性の家事労働への参加増加などもみられた。

- 対象地域のジェンダーの状況を理解する。
- 製品・サービスの開発に、少女・女性の課題を理解したスタッフ、女性スタッフが参加する。
- マーケット調査を行う際に、少女・女性を一定程度対象として含み女性特有のニーズを把握する。
- ジェンダー視点を取り入れる際のご参考

[JICA事業におけるジェンダー主流化のための手引き](#)
[\(更新日:2023年1月\) | 事業について - JICA](#)

ご清聴くださり、誠にありがとうございます